

厚生労働科学研究費補助金

障害者対策総合研究事業（障害者政策総合研究事業（精神障害分野））

（総合）分担研究報告書

救命救急センターへ搬送された自殺企図患者への
精神医療地域連携パスについての研究

研究分担者 山本賢司

東海大学医学部専門診療学系精神科学 教授

研究要旨

研究目的: 自殺未遂者に対する精神医療の質の担保や効率的な支援を提供するために、精神医療地域連携パスを作成して実践する。また、精神医療地域連携パスを運用する地域の違い（政令指定都市と非指定都市など）を考慮し、問題点を明らかにする。

研究方法: 平成 25 年度は、平成 23 年度より開始された北里大学病院救命救急センターと地域の精神医療機関、相模原市精神保健福祉センターを中心とした市の地域支援事業やアウトリーチなどとの連携を目指した自殺未遂者等地域支援ネットワークでの問題を整理し、政令指定都市である相模原市の自殺未遂者に対する精神医療地域連携パスの試案を作成した。平成 26 年度は地域の実情にあったモデルの作成をテーマに、神奈川県央部の東海大学病院において 自殺企図で入院となった症例に対する社会支援のニーズに関する調査、自殺再企図のリスクファクターに関する研究、地域連携のための地域社会資源に関する調査を行った。

結果: 北里大学病院を中心にして行った自殺未遂者等地域支援ネットワークで問題となった点は、医療機関側の PSW、心理士の役割と権限がわかりづらい、社会的支援側のスキルやメンタルヘルス対策、短期退院患者への対応が困難などであった。上記に対し、自殺未遂者支援のための人材配置と期待する役割についてのアンケート調査、自殺未遂者を支援する精神保健福祉担当者を対象とした研修前後での変化に関する調査、自殺未遂早期退院患者に対する支援ツール研究などを行い、平成 25 年度に自殺未遂者への精神医療地域連携パスの試案を作成した。また、平成 26 年度の結果から a) 救命センターの医療圏が複数の市・保健所の管轄に跨る場合には、窓口やサービスの内容が地域によって異なるために、必要なサービスを斡旋して繋いでいく精神科ソーシャルワーカーが重要であること、b) 自殺再企図患者は退院後に精神科医療機関に継続通院している症例も多く、精神科医療機関との再企図予防策などについての検討が必要であること、c) パス導入のためには医療機関・地域社会資源を含めた定期的な検討会・勉強会などが必要であることなどが明らかとなった。

まとめ: 精神医療地域連携パスの作成・運用は地域の実情に合わせた形で行われることが重要であり、地域情報の確保、関係する職種のスキルアップとサポート体制などが重要であると考えられた。

研究協力者氏名・所属施設名及び職名

大石 智	北里大学医学部精神科学	診療講師
宮地 伸吾	北里大学医学部精神科学	助教
乾 真美	北里大学医学部精神科学	助教
山田 素朋子	北里大学医学部中毒・心身総合救急医学	助教
井出 文子	北里大学医学部中毒・心身総合救急医学	助教
上條吉人	北里大学医学部中毒・心身総合救急医学	特任教授
立松 聖一	北里大学大学院医療系研究科医療心理学	
奥 亜希子	相模原市精神保健福祉センター	
鈴木志麻子	相模原市精神保健福祉センター	
宮岡 等	北里大学医学部精神科学	教授
三上克央	東海大学医学部専門診療学系	精神科学 講師
山田桂吾	東海大学医学部専門診療学系	精神科学 助教
木本幸祐	東海大学医学部専門診療学系	精神科学 助教
内田敦子	東海大学病院 患者支援センター	総合相談室 ソーシャルワーカー
秋山洋平	東海大学病院 患者支援センター	総合相談室 ソーシャルワーカー

A. 研究目的

「自殺未遂者への精神医療の質の担保や効率的な支援を提供するために、精神医療地域連携バスを考案して実践する」ことが本研究の主たる目標である。

B. 研究方法

平成25年度

1) 北里大学病院救命救急センターへ搬送された自殺企図患者の特徴に関する調査

平成 24 年度に北里大学病院救命救急センターへ搬送された自殺企図患者 305 名を対象に、診療録を後方視的に調査し、自殺企図患者の天気などの臨床特徴を明らかにした。

2) 自殺未遂者支援のための精神医療地域連携バス試案の作成

1) で得られた結果と平成 23 年度相模原市委託業務「自殺未遂者地域支援ネットワーク構築に関する研究事業」の結果を基に、参加してい

ただいた救命救急医、精神科医、精神保健福祉士、心理士、相模原市精神保健福祉センターの精神科医、保健師、地域の精神病院勤務医、開業精神科医などの意見を抽出し、また、平成 24 年度、25 年度の相模原市委託研究事業の結果を加味して相模原モデルとして作成した。

平成26年度

1) 自殺企図で入院となった症例に対する社会支援のニーズに関する調査

救命センターに搬送された自殺未遂者の社会的支援に対するニーズを明らかにすることを目的に、当院高度救命救急センターに自殺企図で搬送され、入院となった 160 症例に対して評価を行い、精神保健福祉士の介入が必要であった群（介入群）と介入がなかった群（非介入群）の比較を行った。

（なお、本研究は神奈川県自殺未遂者支援事業委託業務の一部のデータを利用して行ってい

る。)

2) 自殺再企図のリスクファクターに関する研究

当院高度救命救急センターを受診または入院となった自殺企図者に対し、文書送付による2年間追跡調査を行い、自殺企図後の実態把握、および再企図のリスクファクターを探索的に調査する。

(なお、本研究は現在も継続しており、提示する結果は中間解析を行ったものである。)

3) 地域連携のための地域社会資源に関する調査

地域自殺対策検討会への参加、平塚保健福祉事務所秦野センター、神奈川県精神保健福祉センターへのヒアリングなどを行った。

(倫理面への配慮)

平成26年度の1)自殺企図で入院となった症例に対する社会支援のニーズに関する調査、2)自殺再企図のリスクファクターに関する研究については東海大学医学部 臨床研究審査委員会の承認を受けて行っている。

C. 研究結果

平成25年度

1) 北里大学病院救命救急センターへ搬送された自殺企図患者の特徴に関する調査

自殺未遂患者は即日帰宅・短期退院する患者と、精神症状が重篤で北里大学東病院や他の精神科病院に転院となる患者の流れに大きく分けられることが明らかとなった。

2) 自殺未遂者支援のための精神医療地域連携パス試案の作成

自殺未遂者支援のための精神医療地域連携パス(相模原モデル)を試案として作成した。

平成26年度

1) 自殺企図で入院となった症例に対する社会支援のニーズに関する調査

搬送された自殺未遂者の居住地は14市8町と5都道府県に跨っており、精神保健福祉士の介入が必要であった症例(介入群)は全体の30.6%であった。介入群は入院日数が長い症例や転院になる症例が多かった。

2) 自殺再企図のリスクファクターに関する研究

自殺再企図患者は退院後に精神科医療機関に継続通院している症例も多いことが明らかとなった。

3) 地域連携のための地域社会資源に関する調査

地域の自殺未遂者支援の体制が明らかになった。

D. 考察

自殺未遂の既往は自殺既遂に関する最大の危険因子といわれており、過去には自殺企図者の5-10%が初回の自殺企図から数年以内に自殺既遂に至ると報告され、一般人口と比較しても自殺企図後の自殺の危険度は約40倍に相当すると報告されている。自殺の危険因子が経済的な要因や職場の要因、家庭の要因など多岐にわたっていることを考えると、救命センターを退院したばかりで精神的にも安定していない自殺未遂者が、複雑な問題を解決していくのには困難が伴うことが多く、様々な支援が必要であることは言うまでもない。また、精神医療への受療促進とともに、行政をはじめとした社会的支援への繋ぎなどを関係各所と連携しながら行っていくことは、再企図予防の観点からも重要である。

一方、医療や行政への支援に繋ぐ役割を担う

救命センター側にとってみると、自殺未遂者の多くは即日帰宅・短期入院となる症例が多く、繋ぎのための時間が短いことや、3次救急医療機関の医療圏は行政の管轄とは異なっていて、幅広い地域から患者が搬送されているという実情があり、地域の医療資源・社会資源に精通した精神保健福祉士などの役割は自殺未遂者支援を行う上で重要である。実際、近年行われた「自殺企図の再発防止に対する複合的ケースマネジメントの効果～多施設共同による無作為化比較研究～ACTION-J)」では、精神保健福祉士や臨床心理士が自殺未遂者支援へのケースマネジメント（定期的な対象者との面接、対象者の生活背景・受療状況に関する情報収集、精神科受療の促進、精神科・身体科かかりつけ医に関する受療調整、受療中断者への受療促進、公的社会資源・民間援助組織の紹介と利用する際の調整、心理教育と情報提供、専用ウェブサイトを利用した情報提供など）を行うと、6か月にわたって自殺再企図が強力に抑止されることを明らかにしている。

しかし、自殺未遂者の支援は自殺企図直後で完結するわけではなく、一時的に希死念慮がおさまったとしても、しばらくの時間を経た上で再び希死念慮が出現する可能性が十分に考えられる。従って、自殺未遂者支援は救命センターからスタートするが、そこから徐々にかかりつけ医療機関や地域の社会的支援へ移行していく必要がある。このような認識を持ち、自殺未遂者支援を行う人が同じ方向を向いて支援をしていくためには、何らかのシステムが必要であり、それを繋ぐものが必要である。身体医療の領域ではこのような問題を解決していくためにクリニカル・パスが様々な形で用いられており、その有用性が報告されている。精神科領域でのク

リニカルパスの報告は未だに数が少ないが、地域医療機関や行政機関との連携を考えていく上では有効な手段となり得るものと考えられる。

われわれはこの2年間の研究で、地域医療の実情に合わせた自殺未遂者支援のための精神医療地域連携パスの試案を作成し、地域で実践するための調査を行った。試案は政令指定都市である相模原市の地域に合わせて作成したが、一方で他の地域での導入も考慮し、運営していくための予備的な調査を非政令指定都市の神奈川県央部で行った。その中で、地域連携パスを用いながら支援していくためには救命センターの精神保健福祉士の役割が重要であることや、自殺再企図者の中には精神医療機関に継続受診している症例も多く、今後は精神科医療機関での対応についても検討が必要であること、また、医療機関・地域社会資源を含めた定期的な検討会・勉強会などが必要であることなどが明らかとなった。

E. 結論

今回の調査・研究では、自殺未遂者支援のための精神医療地域連携パスの試案を作成し、実際に様々な地域で運用していくための問題点を明らかにした。今後はこれらの結果をもとに、試案として作成した地域連携パスを実践していく予定である。

F. 健康危険情報

特になし。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 山本賢司：【「精神科的評価および対応」のポイント 精神科医の立場から】急性中毒治療の5大原則・救急・集中治療 25(7・

8):801-804, 2013

- 2) 山本賢司：リエゾン精神医学と地域連携
- 自殺未遂者支援のための地域ネットワークについて - 精神科 24(4): 454-460, 2014

2. 学会発表

- 1) 井出文子、上條吉人、銘苅美世、山本賢司、廣岡孝陽、宮岡等：当院救命救急センターでの取り組み～中毒・心身総合救急医学講座を開講して 第109回日本精神神経学会学術総会 2013年5月 福岡市
- 2) 山本賢司、立松聖一、奥亜希子、乾真美、鈴木志麻子、宮地伸吾、岩満優美、宮岡等：地域における自殺未遂者支援のための人材配置について 心理士に期待される役割を中心に 日本健康心理学会第26回大会 2013年9月 北星学園大学(札幌市)
- 3) 山本賢司：自殺予防における大学病院と地域の取り組みについて 第2回神奈川県県央不安・抑うつ研究会 2013年9月 神奈川県厚木市
- 4) 高井美智子、上條吉人、井出文子、山田素朋子、山本賢司：向精神薬を過量服薬する患者の背景についての検討：その他の急性中毒と比較して 第37回日本自殺予防学会総会 2013年9月 秋田
- 5) 山田素朋子、井出文子、青柳明子、荒井有美、座間秀行、大西ひとみ、白井教子、桃園忍、石川美雪、廣岡孝陽、中村珠恵、亀沢有子、山本賢司：北里大学病院・東病院における院内自殺防止プロジェクトについて 第37回日本自殺予防学会総会 2013年9月 秋田
- 6) Inui-Yukawa M, Yamamoto K, Tatematsu S, Miyaji S, Ide A, Miura S, Iwamitsu Y, Miyaoka H : Suicide and suicidal behavior

among young people in Japan : Association with clinical characteristics and antidepressants. World Psychiatric Association International Congress 2013.10 Austria

- 7) Yamamoto K, Tatematsu S, Oku A, Iga T, Inui-Yukawa M, Hoshino S, Hirooka T, Suzuki S, Miyaji S, Miyaoka H : What kind of professionals is needed for the management of suicide attempters in Japanese community? World Psychiatric Association International Congress 2013.10 Austria

- 8) 山田素朋子、高井美智子、井出文子、北元健、白井教子、山本賢司、上條吉人：精神保健福祉士の救命救急センター常駐化による自殺企図者の在院期間の変化について 第26回日本総合病院精神医学会総会 2013年11月 京都

- 9) 山本賢司：自殺未遂者支援を救命救急センターから始めるときの問題点と今後のあり方について .第26回日本総合病院精神医学会総会シンポジウム .2013年11月京都

- 10) 宮地伸吾、山本賢司、乾真美、奥亜希子、鈴木志麻子、宮岡等：相模原市における政令指定都市前後の自殺の変化について 第110回日本精神神経学会総会 2014年6月 神奈川県横浜市

- 11) 山本賢司、奥亜希子、鈴木志麻子、乾真美、宮地伸吾、宮岡等：地域における自殺未遂者支援のための人材配置について 第110回日本精神神経学会総会 2014年6月 神奈川県横浜市

- 12) 北元健、上條吉人、山本賢司、宮岡等：当院救命センターにおける Vegetamin 過量服用患者の身体合併症および入院期間について 第110回日本精神神経学会総会 2014年6月 神奈川県横浜市

- 13) 木本幸佑、三上克央、猪股誠司、大西

雄一、山田桂吾、高橋有記、木本啓太郎、
山本賢司、松本英夫：自閉スペクトラム症
と境界性パーソナリティ障害に焦点を当て
た思春期自殺企図の特徴 第 27 回日本総
合病院精神医学会総会 2014 年 11 月 茨
城県つくば市 Yamamoto K, Oku A, Suzuki S,
Yamada S, M, Inui-Yukawa M, Miyaji S,
Ohishi S, Miyaoka H: Construction of regional
network for supporting the attempted suicide
patients – A trial of a government-designated
city in Japan. The XVI World Congress of
Psychiatry, Madrid, Spain, Sep, 2014

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

特になし。

2. 実用新案登録

特になし。

3. その他

特になし。